はじめに

県教育委員会では，これからの変化の激しい社会をたくましく生きていくために必要な資質・能力の育成に向け，新しい教育モデルの構築を目指す「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づき，県内全ての児童生徒が，「主体的な学び」を展開することができるよう，取組を進めてまいりました。今年度は，「広島版『学びの変革』アクション・プラン」実行の３年目となり，平成30年度の「課題発見・解決学習」の全県展開に向け，さらに取組を加速させるべく，各学校において児童生徒の「主体的な学び」を促す特色ある取組を進めていただいております。

「主体的な学び」とは，「学習者基点の能動的な深い学び」であり，教師が児童生徒をよく観察して，児童生徒の興味・関心，既有知識，経験，生活等を把握し，その内容を踏まえ，児童生徒の思いや願い，考えなどを大切にしながら，教科等の目標を達成させるために必要な学習内容や効果的な指導方法を取り入れ，学習活動を組み立てていく学びです。

また，「主体的な学び」では，学習形態を問わず，学習者が，学習活動に自ら積極的に関与し，単に知識の習得に留まらず，学んだ知識をつなげて新たな知識を生み出したり，新たな学びを展開したりします。「主体的な学び」は，学習者自身が，学習活動を振り返り，自らの見方・考え方の高まりや学習の仕方を自覚的に捉え評価することによって，一層促されるものであり，これにより，学習者は，更に学習意欲を高め，自らが授業での学びを予習や復習などにつなげていくというような自立的な学習を進めていくことになります。

こうした中，第1章では，教科調査と児童生徒質問紙調査，学校質問紙調査を基に，児童生徒が，自ら課題を見付けたり，課題解決の過程において知識・技能を活用して思考・判断・表現したり，他者と協働して学んだりする活動と学力との関連について分析をしました。また，新たに児童生徒質問紙調査の質問事項どうしの関連や学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査の質問事項の関連についても分析を行いました。

第2章では，「基礎・基本」定着状況調査実施からの16年間を振り返り，教科調査において継続的に課題のあった問題について，通過率の推移，内容の系統を示し，誤答の状況等に解説を加え，これまで示してきた指導のポイントを掲載しています。今後，各学校でこれらの事例を参考に，更なる授業改善を図っていただきたいと考えております。

各学校においては，学校全体としての組織的な取組を進めるに当たり，本報告書を参考に児童生徒一人一人の分析・考察を深めるとともに一層の授業改善を進め，基礎的・基本的な知識・技能に加え，習得した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力の育成を図っていただきたいと考えております。

最後に，本調査の実施，分析，報告書作成に御尽力いただきました関係者の皆様に，深く感謝を申し上げます。

平成30年1月